財団法人 日本自転車競技連盟 広報誌

Cyclism echo
シクリスムエコー

www.jcf.or.jp

シクリスムエコーNo.90　2002年9月号

2002年ジュニア世界選手権トラック競技 …… 2
第37回全国都道府県対抗自転車競技大会 …… 4
第33回全日本実業団自転車競技選手権 …… 6
第36回全日本実業団対抗サイクルロードレース …… 7
文部科学大臣杯 第58回全日本大学対抗選手権 …… 8
第10回三笠宮杯ツール・ド・とうほく …… 10
第19回シマノ鈴鹿国際ロードレース …… 11
2002年マウンテンバイク世界選手権 …… 12
第5回アジア室内自転車競技選手権 …… 13
サイクルサッカー・ワールドカップ アジア大会 …… 13
競技大会結果 …… 14
JOC カップでのアンチドーピング違反選手への制裁 ・15
2002年トラック・ロード世界選手権日本代表選手団 ・15
チャレンジ・ザ・オリンピック要領／選手強化委員会 ・・16

全日本実業団選手権ケイリン決勝

2002年ジュニア世界選手権トラック競技

チームスプリントのスタート

本大会は8月21日から25日までの５日間、オーストラリア大陸最南端の都市メルボルンのボーダフォン・アリーナ屋内250m（板張）で、26カ国の参加により開催された。日本選手団は8月17日の夜に成田を出発し、11時間の長旅の後、翌朝の18日に現地入りし、ゲーリーウエストヘッドコーチの指導のもとでコンディショニングをおこなった。選手達は、酷暑のインターハイから打って変わって真冬の国での世界選手権出場とあって、気候の急激な変化によるコンディショニングミスを心配していたが、朝夕の冷え込みは多少あったものの日中の気温は15℃前後と快適そのもので、すぐに順応して大会に臨むことができた。

女子ケイリン

最初の決勝種目である女子ケイリンに出場した遠藤友子は、積極的な先行策で１周半を逃げ切り、予選を1位で通過した。続く決勝ではゴールまであと２周を残した１コーナー入口より、だんご状態で牽制し合う集団のわずかに空いたインを突いて一気にスパート。そのまま２周を果敢に先行し、ゴール前で2人に抜かれながらも3位でねばってゴールラインを切った。初日から幸先良くメダルを獲得！ と一瞬ピットは沸き返ったものの、結果発表ではスパート時のわずかなブルーバンド走行を厳しく取られての降格判定。抗議も受け入れられず、そのまま最後位の6位が決定してしまった。ブルーバンド走行は、レースの大勢に影響を与えるほどのものではなかっただけに、日本チームにとってはたいへん後味の悪い判定結果であった。

男子ケイリン

男子ケイリンには北津留翼と橋本強が出場した。北津留は圧倒的な先行力をもって予選準決とストレートで勝ちあがり、橋本は予選4位で敗者復活に回りながらも、その後は勝ち進んで互いに決勝戦に駒を進めることができた。

決勝戦では北津留が４番手、橋本が５番手のならびで仕掛けるチャンスをうかがう展開から、ラスト２周を残した１コーナー入り口で６番手に付けていた選手が一気にダッシュを仕掛けてレースが動いた。その動きに若干合わせるのが遅れて競り負けた2人は、集団の最後尾の大外に位置した状態でスピードが上がってしまう。必死に状況の打開を試みるも、その態勢はゴールまで崩すことができず、それぞれ５位６位のゴール通過となってしまった。しかし結果発表では他選手に押圧行為の反則があり、それぞれ1着ずつ繰り上がって北津留が4位、橋本が5位の結果となった。２名が決勝に進出し、戦術的には優位な状況にありながらも、その優位性を残りの４人に完全に封じ込められての惨敗であった事が悔やまれる。

チームスプリント

橋本強、北津留翼、臼井昌巨の布陣で臨んだチームスプリントは、予選ではこれまでのジュニア250mバンク日本記録を大幅に上回る48秒838のタイムで5位となり1回戦へ進出した。

1回戦は予選4位で48秒394のタイムを出したチェコとの対戦となったが、予選タイムの0.444秒差は、この周長からすると大差であった。しかし即席チームである日本チームの予選の走りには、まだまだ改善の余地があり、逆転の可能性に期待して綿密な打ち合わせをおこなった。そして、1回戦では予選タイムを上回る48秒665（ジュニア250mバンク日本新記録更新）のタイムを叩き出すが、チェコには敗れて、決勝ラウンド進出の夢は絶たれた。この時点で1回戦でのタイムにより5位が決定した。

25km
ポイントレース

ポイントレースに出場した三瀧光誠は、スタート前の公言どおり２回目のポイントを後続の追従を1/4周近くも引き離した単独の逃げを成功させ、1位通過により5点を獲得した。しかし今回のレースの結果を大きく左右した勝負所の動きは、三瀧が集団に吸収された直後の3回目のポイント絡みから始まった。逃げと吸収のデッドヒートが繰り返される中で、そのサバイバルを制した4人組み（ロシア、オランダ、イギリス、ウクライナ）の選手が先頭集団を形成して、４回、5回、６回のポイントを悠々と獲得する展開を作った。乗り遅れた三瀧も必死にアタックを繰り返し状況の打開を試みるが、無駄足となってしまう。その後6回目のポイントの時点で、先頭集団はすでにメイン集団の後方に迫り、レースはこのままの状態で終盤まで推移するかに思われた。しかし、先頭の4人は残り40周を残したあたりであっさりとメイン集団をラップして10点を獲得する作戦に出た。これによりレース展開は振り出しに戻り、またしても激しい逃げと吸収の攻防が繰り返される展開となった。そしてその中で三瀧は9回目のポイントを、またしても鋭い逃げで後続の猛追を大きく引き離す展開に持ち込み、楽々と1位通過を成功させて5点を追加した。結局三瀧はこの2回の1着で効率よく獲得した10点により最終成績で6位を得ることができた。

3kmを走れば3分20秒前半、チームパーシュートでは4分10秒台といった記録を持つ世界レベルの選手たちと渡り合って得た三瀧の6位という成績は、けっして「たまたま運良く・・・」と言った種類ものではなく、展開次第ではさらに上を狙うことも十分に可能な内容であった。これからの世界ジュニア戦に挑む日本の中距離選手に希望を持たせる結果を残したと評価して良いだろう。

スプリント

スプリントに出場した北津留翼は予選では11秒151のタイムで12位からのスタートとなった。これにより1回戦からタイム的には格上との対戦を強いられる形となってしまった。だが、対戦相手と競り合った時の北津留の集中力はすばらしく、1/8決勝では敗者復活戦に回りながらも1/4決勝にまで駒を進めることができた。そして1/4決勝では、地元オーストラリアのフレンチマークと3本勝負にもつれ込む息の詰まるような好勝負

男子ポイントレース６位の三瀧

女子スプリントの遠藤(右)

を展開して場内を沸かせた。結果的には2対１で敗れはしたものの、最終的にゴールドメダルを獲得したこの選手に一矢報いたのは、北津留ただ１人のみという大活躍であった。5〜8位決定戦に回った北津留は２着でゴールして6位を獲得した。

北津留は年齢的にもう一度出場のチャンスがあり、国際舞台での更なる成長を期待したい。

《考　察》

今回のジュニア世界選手権を振り返ってみると、日本選手団の残した成績は、メダルには惜しくも届かなかったが、参加選手全員が何らかの形で6位以内の入賞を果たすという立派なものであった。特に短距離種目、長距離種目、団体種目と幅広く好成績を残すことができたことは、今後に向けた明るい材料を得たと言って良いだろう。ただ、今後の日本ジュニアチームの更なる躍進を考えるとき、メダルを獲得した外国選手と入賞のみに終わった日本選手との間には、まだまだ見て取れるほどの実力差があり、越えなければならないハードルも多いと感じた。

まず現地入りしたその日から最終日に至るまで常に思い続けたことは、外国選手と日本選手の走行技量の差についてであった。日本のジュニアの選手が250mバンクで外国選手と対等に戦うためには、もっともっと走行テクニックの事例を研究すると同時に、実際に250mバンクを使用した長時間の走行練習や、実戦練習を積んだ状態で大会に挑まなければならないだろうと感じさせられた。たとえば、大会前の練習風景を見ただけでも、上位チームの走りからは異次元の物を感じずにはいられなかったし、スプリント競技においては、先行策しか授けることのできない日本チームのピットを後目に、250mバンクでの追い込みをまったく不利とは思わせない上位選手のテクニックは、目を見張るほど鮮やかなものであった。

またジュニアのギヤ比に関しては、賛否両論あるところであるが、4ｋｍチームパーシュートの上位チームは4分10秒台がごくあたりまえのタイムであり、53×15または49×14といった重いギヤを毎分130回転前後の高速で回していた。さらにはゲーリーコーチが各種目で日本の選手に指示したギヤも、48×14または51×15などの重いギヤであった。ジュニアでも世界レベルの戦いではこのようなギヤを使いこなすことが要求されているのが現状である。ただしこれには付け加えなければならないことがあり、トレーニング時(試合前の調整練習)においては、ほとんどの国の選手が46×16から最大でも48×16の極端に軽いギヤを使用しており、この軽いギヤを軽すぎると感じさせないほどスムーズに回転させていたのが印象的であった。こういった世界の流れに取り残されないで、世界で通用するジュニアのトップ選手を育成するためには、たとえばトラックレーサーにおいても、大会やトレーニングの目的に応じて、頻繁にギヤを変更することが常識化するような習慣づくりをすることや、指導者がペダリングの重要性を理解したうえで目的別によるギヤの使い分けをマスターし、さらには具体的な指導マニュアルを作成して底辺にまで普及徹底させる、などの方向性を確立することが大切であるように感じた。

今大会を見る限り、地元開催ということを差し引いても、15種目中5個の金メダルを獲得したオーストラリアの活躍はすばらしいものであった。今、オーストラリアから学ぶことのできる環境にあるわれわれは、彼らから少しでも多くの事を吸収しなければならない。そしてオーストラリアのノウハウをもとに、日本流の選手強化マニュアルが確立できた時、日本ジュニアのレベルはより一層ハイレベルなものに変わってくるのではないかと感じた。(高体連強化委員　川口 敬二)

[競技結果]

男子個人追抜競走

1	Jamieson Mark	AUS	3:22.694
2	Ignatiev Mkhail	RUS	3:23.161
3	Kulakov Serguei	RUS	3:25.137
21	臼井　昌巨	JPN	3:37.52

男子ｹｲﾘﾝ

1	French Mark	AUS
2	Lakatosh Andrew	USA
3	Mamachev Alexey	RUS
4	北津留　翼	JPN
5	橋本　　強	JPN

男子1Kmﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ

1	Cosrove Wade	AUS	1:04.154
2	Pervis Francois	FRA	1:04.352
3	Lopez Ahmed	CUB	1:04.394
11	橋本　　強	JPN	1:07.159

男子ｽｸﾗｯﾁﾚｰｽ（10km）

1	Stroetinga Wim	NED	12:54.260
2	Frey Sebastian	GER	
3	Rasmussen Alex	DEN	
12	三瀧　光誠	JPN	

男子ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	FRA	46.750
2	GER	47.316
3	CZE	48.077
5	日本	48.665

男子団体追抜競走

1	RUS	4:14.535
2	AUS	4:15.545
3	CZE	4:18.362

男子ｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	French Mark	AUS
2	Seidenbecher Michael	GER
3	Pervis Francois	FRA
6	北津留　翼	JPN

男子ﾎﾟｲﾝﾄﾚｰｽ（25km）

1	Ignatiev Mkhail	RUS	30p
2	Kondrut Vitalry	UKR	20p
3	De Jong Gideon	NED	20p
6	三瀧　光誠	JPN	10p

男子ﾏﾃﾞｨｿﾝ

1	FRA	22p
2	AUS	16p
3	GER	16p

女子ｹｲﾘﾝ

1	Frisoni Elisa	ITA
2	Wenya Shi	CHN
3	Chulkova Anastasia	RUS
6	遠藤　友子	JPN

女子500mﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ

1	Frisoni Elisa	ITA	36.195
2	Jeannot Emilie	FRA	37.268
3	Strohschneider Jenni	GER	37.490
7	遠藤　友子	JPN	37.978

女子個人追抜競走

1	Rhodes Alexis	AUS	2:32.240
2	Kurtzke Julia	GER	2:32.456
3	Vierling Miranda	NED	2:33.028

女子ｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	Frisoni Elisa	ITA
2	Merzlikina Ekaterina	RUS
3	Strohschneider Jenni	GER
9	遠藤　友子	JPN

女子ﾎﾟｲﾝﾄﾚｰｽ（20km）

1	Vierling Miranda	NED	27p
2	Gu Sung Eun	KOR	19p
3	Shimei Fu	CHN	15p

女子ｽｸﾗｯﾁﾚｰｽ（7.5km）

1	Merzlikina Ekaterina	RUS
2	Gu Sung Eun	KOR
3	Goss Belinda	AUS
	遠藤　友子	JPN　DNF

第 37 回全国都道府県対抗自転車競技大会

男子個人ロードレースのフィニッシュ

第37回全国都道府県対抗自転車競技大会・第58回国民体育大会自転車競技リハーサル大会が、平成14年9月8日（日）～10日（火）の３日間に亘り行われた。

８日は男子、女子のロードレースが、浜松市の遠州灘海浜公園を起点に、竜洋町、磐田市、福田町、浅羽町、大須賀町、大東町、浜岡町、御前崎町、相良町の2市8町を結ぶ公道（150号線）を往復するコースで実施された。コースとなった各市、町では国体成功の気運を盛り上げる絶好の機会と捉え、実施本部責任者、スタッフ、ボランティアに至るまで本番さながらの体制で万全を期された。コースの安全を監視する立哨員の数だけでも総勢1151人にも及んだ。

一方、トラックレースは、静岡市に移動して９日、10日の２日間、静岡競輪場で実施された。天候は９日午前中に一時、雨に見舞われたがそれもやがて回復して、３日間ともおおむね好天に恵まれた大会となった。ただし、陽射しは強く、1.5～1.8m程度の風も吹いて選手もコンデショニングに苦労していたようだ。

ロードレース

男子115名の選手が午前9時一斉にスタート。御前崎町までの往路は右手に太平洋を望み、遠州灘の白い砂丘の連なりを縫って走る約３時間、途中2ヶ所の周回コースを含む133.16kmの一般道でのレース。

女子は御前崎町の手前、浜岡町を折り返し点とする93.95ｋｍのコース。男子の3分後、29名の選手がスタートした。

男子は、当初、小笠原豪（青森）、高橋栄光（岩手）の２選手が逃げ、約23秒差で第２集団の約80名が、さらに６名の小集団が追う展開となる。レースが進むにつれタイムオーバーで失格となる選手が出始め、御前崎町を通過する時点では102名の選手となった。復路は、鉄沢孝一（石川）、西村拓也（京都）、日置大介（兵庫）、小野寺孝太（岩手）、若槻彰隆（大阪）らのトップ集団を第２集団が約６分遅れで追う展開となったが、やがて吸収されて一団となってゴールを目指す。昨年２位の西村拓也（京都）が抜け出しを図るが再び吸収され、トップがめまぐるしく変わる中、レースはゴール勝負の様相を呈し始める。

結局、長野耕治（愛媛）が昨年３位の中川康二郎（茨城）、９位の森 正和（静岡）らを抑え栄冠を手にした。

女子は、浜岡町の折り返し点を通過する時には、11名が脱落して18名の選手となった。さらにレースが進むにつれ、２名が脱落、12名のトップ集団を４名の第２集団が追う展開となった。最終的に先頭集団は10名となり、ベテラン西加南子（千葉）が抜け出しゴールイン。２位は中村珠藻（奈良）、３位には小野翔子（栃木）が入った。

トラックレース

静岡競輪場 400m 最大斜度 30度43分 幅員 10.3m

第１日　決勝種目

●男子チームスプリント　途中、降雨に見舞われるなど不安定な天候の中、香川、富山、茨城、埼玉チームが好タイムを出して、1/4決勝に進んだ。この種目はなんと言っても第１走者のダッシュ力がポイントになる。優秀な第１走者を擁した香川、富山の２チームが決勝に進出し、香川チームが優勝した。

● 少年男子1kmTT　天候は回復して記録が期待されたが、前半は10秒台の記録で推移する。第6組の甲斐康昭（群馬）が１分09秒955を記録。

後半に入り、今年8月のインターハイの再戦となる橋本 強（愛媛）と須賀和彦（茨城）が同じ10組で対戦。結局、須賀が僅差で橋本を破り、インターハイの雪辱を果たした。タイムは1分08秒629。２位の橋本は1分08秒719。

●成年男子1kmTT　少年に引き続き競技開始。第４組の山口泰生（岐阜）が1分07秒551を記録して、この時点での最高タイムとなった。最終走者の在本直樹（岡山）まで、この記録を上回るものがなく在本の走りが注目された。在本は、さすがに実力者らしく自信に溢れた走りで1分07秒107の記録で優勝した。

● 少年男子ポイントレース　池田丈志（奈良）が、積極的な走りを披露して、小岩大介（大分）、村上純平（山形）、古川尚耶（栃木）らを退け優勝した。池田はレース開始後、第２回ポイントで首位を奪い、その後、力を温存。第８回ポイント後、一気にスパートしてそのまま逃げ切ったもの。

第２日　決勝種目

● 女子500mTT　快晴、27℃、ホームストレッチ側で約２ｍの追い風が吹くコンデションの中スタート。前半、ほとんどの選手が40秒台の記録に止まる中、岡希美（群馬）がバネの効いた走りで38秒981を記録した。その後、これを上回る記録がなく、篠崎新純（千葉）、中尾友美（奈良）に注目が集まった。篠崎は、ダイナミックな走法で当日唯一37秒台の37秒957を出して優勝した。最後に走った中尾は38秒467で２位に終わった。

スケートの大菅も挑戦しているよう

女子500mTT

成年男子ポイントレース

男子スプリント決勝を最後にすべての競技を終了し、都道府県の得点が集計された結果、男子は茨城県、女子は千葉県が優勝した。

レース終了後、閉会式が行われ、スローガンに“がんばるが”が好きを掲げたＮＥＷ!!わかふじ国体のリハーサル大会は無事終了した。（今井 弘明）

に、今後ますます注目と期待が集まる種目となるだろう。

● 成年男子ポイントレース（30km）

第１回ポイントを過ぎるころから、武藤大輔（高知）、鈴木謙一（静岡）、伊東太一（山梨）、楠本正昭（愛知）、岡本 健（和歌山）柴田祐也（岐阜）、片山智晴（岡山）らが先頭集団を形成してレースをリードする。

第６回ポイント通過後に落車事故が発生。その後は、岡本が着実にポイントを獲得し栄冠を獲得した。昨年２位の楠本、３位の岡部英人（富山）は、それぞれ４位、８位に甘んじた。

● 男子4km団体追抜競走　予選で対戦し共に1、2番時計を出した山形と和歌山が決勝戦で再度対戦。山形は終始バランスの取れた走りで和歌山を圧倒、大会新記録の４分32秒013で優勝した。

● 女子ポイントレース　予選を経た15選手により決勝戦が行われた。昨年２位の森本朱美（鳥取）、８位の小野山恵美（愛媛）、10位の永田萌子（大分）、11位の宮崎杏菜（大分）らと、この所、急上昇の許斐真由子（鹿児島）、唐見実世子（石川）らが対戦。終始、着実にポイントを獲得した許斐が森本らを抑えて優勝した。

● 男子スプリント　さすがに力をつけている北津留翼（福岡）が、予選200mTT 11秒131の段階から終始、他者を圧倒して第1回戦、1/8、1/4、1/2決勝いずれも危なげなく勝ち上がり決勝戦に駒を進めた。一方、対戦者の湯原正行（長野）も200mTT11秒184を記録して好調を維持。鋭いダッシュ力を駆使して決勝戦に臨んだ。

決勝1回戦は、湯原が巧みなレース運びで逃げ切った。やや、油断負けした感じの北津留だったが、これで目が覚めたのか、後の2、３回戦は積極的なレース運びで湯原を圧倒し優勝を飾った。

男子スプリント決勝

［競技結果］

男子個人ﾛｰﾄﾞﾚｰｽ（１３３.６km）

1	長野　耕治	愛媛	長野建具	3:05:21.003
2	中川康二郎	茨城	ｽｰﾊﾟｰｱｽﾘｰﾄ	3:05:22.026
3	森　　正和	静岡	宮田工業	3:05:22.087
4	室井　佑介	愛知	法政大学	3:05:22.137
5	広瀬　　学	石川		3:05:22.220
6	鉄沢　孝一	石川	新家工業	3:05:22.253
7	江下健太郎	愛知	愛三工業	3:05:22.300
8	日置　大介	兵庫	ひおきﾏﾈｷﾝ	3:05:23.038
9	石田　哲也	愛知		3:05:23.741
10	棟久　明博	山口	ﾃｨｰｻｰﾌﾞ	3:05:26.061

女子個人ﾛｰﾄﾞﾚｰｽ（９３.９５km）

1	西　加南子	千葉		2:28:48.189
2	中村　珠藻	奈良	順天堂	2:28:49.132
3	小野　翔子	栃木	明治大	2:28:49.449
4	唐見実世子	石川		2:28:49.565
5	杉村　久美	岩手		2:28:49.742
6	小野山恵美	愛媛	ｳﾒｻﾞﾜ	2:28:49.999
7	小高セツコ	埼玉		2:28:50.404
8	伊与田尚加	静岡	足立楽器	2:28:50.936
9	許斐真由子	鹿児島	鹿屋体	2:28:53.553
10	兼子　明子	鹿児島	鹿屋体	2:28:57.564

男子ｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	北津留　翼	福岡	豊国学園高校
2	湯原　正行	長野	
3	疋田雄一郎	大分	日出暘谷高校
4	原山　　健	大阪	
5	川村　　崇	東京	早稲田大学
6	吉松　賢二	群馬	前橋工業高校

成年男子1kmﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ

1	在本　直樹	岡山	青少年SC	1:07.107
2	山口　泰生	岐阜		1:07.551
3	池田　憲昭	香川		1:09.098
4	坂本　信也	富山		1:09.196
5	矢野　賢児	高知	中四国自競	1:09.985
6	福井　敬司	鳥取	倉吉工業高	1:11.051

成年男子ﾎﾟｲﾝﾄﾚｰｽ（３０km）

1	岡本　　健	和歌山	和歌山県教育庁	52p
2	柴田　祐也	岐阜	法政大学	46p
3	鈴木　謙一	静岡	法政大学	45p
4	楠本　正昭	愛知	愛三工業	41p
5	武藤　大輔	高知	高知中央郵便局	36p
6	片山　智晴	岡山	法政大学	28p

男子ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	香　川	池田・原・矢野	1:18.095
2	富　山	坂本・竹沢・笹倉	1:18.752
3	埼　玉	吉田・宿口・細沼	1:19.468
4	茨　城	須賀・松田・高山	1:20.053
5	山　梨	城・伊藤・古屋	1:20.708
6	大　阪	佐川・原山・稲川	1:20.903

男子4km団体追抜競走

1	山形	立里・村上・三瀧・笹原	4:32.013
2	和歌山	前田・岡本・松村・椎木尾	4:35.866
3	福島	金澤・熊谷・小野・新田	4:41.249
4	奈良	池田・奥田・辻浦	4:45.972
5	大分	柿本・小岩・小川・安部	4:43.556
6	岐阜	柴田・山田・吉田・平林	4:44.934

少年男子1kmﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ

1	須賀　和彦	茨城	取手第一高	1:08.629
2	橋本　　強	愛媛	松山聖陵高	1:08.719
3	金澤　竜二	福島	学法石川高	1:08.979
4	甲斐　康昭	群馬	前橋工業高	1:09.955
5	佐野　雄希	愛知	愛工大名電	1:10.160
6	樫山　恭柄	福岡	豊国学園高	1:10.200

少年男子ﾎﾟｲﾝﾄﾚｰｽ（２４km）

1	池田　丈志	奈良	北大和高校	30p
2	小岩　大介	大分	日出暘谷高校	16p
3	身崎　琢磨	宮城	東北高校	14p
4	村上　純平	山形	山形電波工業高	11p
5	中島　康晴	福井	科学技術高校	10p
6	古川　尚耶	栃木	作新学院	6p

女子５００mﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ

1	篠崎　新純	千葉	千葉経大付高	37.957
2	中尾 友美	奈良	筑波大学	38.467
3	岡　希美	群馬	前橋育英高校	38.981
4	岡田由佳子	愛知	桜丘高校	39.374
5	仁藤ひろみ	静岡	明治大学	39.478
6	伊藤　静香	宮城	古川工業高校	39.506

女子ﾎﾟｲﾝﾄﾚｰｽ（１６km）

1	許斐真由子	鹿児島	鹿屋体育大学	19p
2	森本　朱美	鳥取	鳥取湖陵高校・教	16p
3	唐見実世子	石川		14p
4	宮崎　杏菜	大分	別府商業高校	10p
5	篠崎　新純	千葉	千葉経済大附高	8p
6	永田　萌子	大分	別府商業高校	5p

男子団体総合			女子団体総合		
1	茨城県	22p	1	千葉県	20p
2	岐阜県	17p	2	奈良県	14p
3	大分県	17p	3	石川県	11p

第33回全日本実業団自転車競技選手権

予選で4kmIP大会新記録を出した坂口
ポイントレースも制す

第33回全日本実業団自転車競技選手権大会が8月22日・23日の2日間、長野県松本市のかりがね自転車競技場（周長333m）で開催された。

また、この大会をもって選手を引退するチチヤス乳業の塩原正長へ、実業団柴沼理事長より花束が贈呈された。（写真下）

感涙 !!

1kmTT優勝の在本

マディソン優勝のラバネロ 高橋栄光（左）と飯島 誠

団体追抜1位の愛三工業

3km個人追抜とポイントレース優勝の大塚

［競技結果］

男子ｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	久富	武	三菱化学物流ﾚｰｼﾝｸﾞｸﾗﾌﾞ
2	屋良	朝春	ﾁｴﾌﾞﾛﾗﾋﾟｽﾀ
3	青木	亮太	ﾊｰﾌﾟ・ﾚｰｼﾝｸﾞｸﾗﾌﾞ
4	塩原	正長	ﾁﾁﾔｽ乳業ﾚｰｼﾝｸﾞｸﾗﾌﾞ
5	橋本	勝弘	ｴｷｯﾌﾟﾕｰﾚｰｼﾝｸﾞ
6	伊藤	成紀	VELOCISTAﾊﾟｰﾙｽｷﾞﾉ

男子1kmﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ

1	在本	直樹	三菱化学物流	1.06.309
2	三宅	達也	三菱化学物流	1.07.154
3	吉本	哲朗	VELOCISTAﾊﾟｰﾙ	1.08.501
4	矢野	賢児	ﾏﾘﾝｺﾞｰﾙﾄﾞT.T城北	1.08.563
5	池田	憲昭	ｻｲｸﾙｸﾗﾌﾞFET	1.08.693
6	木村	圭吾	ﾊﾟｲﾝﾋﾙｽﾞ'90	1.08.727

男子4km個人追抜競走

1	坂口	博	愛三工業ﾚｰｼﾝｸﾞ	追抜勝ち
2	飯島	誠	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛP.	OVT
3	大塚	英伸	ﾏｯﾄﾍﾞﾛｰﾁｪ	5.00.777
4	工藤	紀夫	ﾊｰﾌﾟ・ﾚｰｼﾝｸﾞｸﾗﾌﾞ	5.03.432
5	三木	哲也	ｻｲｸﾙｸﾗﾌﾞFET	4.58.920
6	行成	秀人	ﾐﾔﾀ・ｽﾊﾞﾙﾚｰｼﾝｸﾞ	4.59.923

男子ｹｲﾘﾝ

1	櫻井	丈	ﾏｯﾄﾍﾞﾛｰﾁｪ ARIAKE
2	塩原	正長	ﾁﾁﾔｽ乳業ﾚｰｼﾝｸﾞｸﾗﾌﾞ
3	百々	敦史	ｻｲｸﾙｸﾗﾌﾞFETｱｼｯｸｽ
4	伊藤	成紀	VELOCISTAﾊﾟｰﾙｽｷﾞﾉ
5	吉田	康則	三菱化学物流ﾚｰｼﾝｸﾞ
6	矢野	賢児	ﾏﾘﾝｺﾞｰﾙﾄﾞT.T城北

男子ｴﾘﾐﾈｲｼｮﾝ

1	高橋	秀作	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛﾊﾟｰﾙｲｽﾞﾐ
2	楠本	正昭	愛三工業ﾚｰｼﾝｸﾞﾁｰﾑ
3	河合	康晴	ﾐｿﾉｲﾚｰｼﾝｸﾞﾁｰﾑ
4	岡本	健	ﾁｴﾌﾞﾛﾗﾋﾟｽﾀ
5	後閑	俊秀	ﾊｰﾌﾟ・ﾚｰｼﾝｸﾞｸﾗﾌﾞ
6	高橋	仁	ﾁｴﾌﾞﾛﾗﾋﾟｽﾀ

男子ﾎﾟｲﾝﾄﾚｰｽ（30km）

1	坂口	博	愛三工業ﾚｰｼﾝｸﾞﾁｰﾑ	35p
2	飯島	誠	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛﾊﾟｰﾙｲｽﾞﾐ	35p
3	行成	秀人	ﾐﾔﾀ・ｽﾊﾞﾙﾚｰｼﾝｸﾞ	30p

経済産業大臣旗 第36回 全日本実業団対抗サイクルロードレース

「もう“平坦だけ”とは言わせない!」
BR-1 優勝の飯島 誠

8月24日・25日の２日間、第36回全日本実業団対抗サイクルロードレースが長野県上水内郡小川村の一般公道周回コースで開催された。

24日はBR-2、BR-3と女子が行われ、翌25日午前9時に経済産業大臣旗をかけたBR-1（93km）の127名がスタートした。

序盤、愛三工業の田中光輝が単独で逃げ山岳賞を獲得したが、次の周集団に呑み込まれてしまう。その後集団も徐々に篩いにかけられ、最終周回へ入る前の登りで飯島 誠（ラバネロ）と狩野智也（シマノ）の2人に絞られたが、その先の下りで飯島がスパート、このハードな山岳コースを制覇した。ちなみに完走者は21名であった。

[競技結果]

BR-1（93.0km）

1	飯島　誠	JPCA	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛ P.	3:08:51
2	狩野　智也	JPCA	ｼﾏﾉﾚｰｼﾝｸﾞ	3:09:45
3	阿部　良之	JPCA	ｼﾏﾉﾚｰｼﾝｸﾞ	3:10:36
4	別府　匠	神奈川	日本鋪道	3:12:53
5	新保　光起	JPCA	愛三工業	3:13:08
6	日置　大介	兵庫	ｷﾅﾝ・ｿﾚｲﾕ	3:13:15
7	田中　光輝	愛知	愛三工業	3:16:06
8	今西　尚志	京都	ｼﾏﾉﾚｰｼﾝｸﾞ	3:16:29
9	江下健太郎	愛知	愛三工業	3:17:12
10	岡崎　和也	JPCA	日本鋪道	3:17:16

団体総合成績（経済産業大臣旗）

1	ｼﾏﾉﾚｰｼﾝｸﾞ	狩野・阿部・今西	13p
2	愛三工業	新保・田中・江下	21p
3	日本鋪道	別府・岡崎・広瀬	33p

※ BR-1以外の競技結果は15ページを参照ください。

ゴール後お互いを祝福する
1位飯島、2位狩野、3位阿部（左から）

あと2周のゴール前を通過する阿部、新保、狩野（以上右から）と飯島（阿部の影）

ORBEAのカザフ2人が後続集団を引っぱるが届かず

4	大塚　英伸	ﾏｯﾄﾍﾞﾛｰﾁｪ ARIAKE		26p
5	岡本　健	ﾁｴﾌﾞﾛﾗﾋﾟｽﾀ		23p
6	山田　哲冶	ﾏﾘﾝｺﾞｰﾙﾄﾞ T.T城北		22p

男子ﾏﾃﾞｨｿﾝ（20km）

1	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛ	高橋栄・飯島	21p
2	愛三工業	坂口・楠本	14p
3	愛三工業	郡山・秋田	4p
4	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛ	高橋・水沢	(-1Lap)7p
5	ﾅｶｶﾞﾜFET	小林・藤田	(-1Lap)5p
6	ﾁｴﾌﾞﾛﾗﾋﾟｽﾀ	岡本・高橋仁	(-2Laps)4p

男子4km団体追抜競走

1	愛三工業	坂口・郡山・秋田・楠本	4.39.73
2	ﾊｰﾌﾟ・ﾚｰｼﾝｸﾞ	工藤・松本・岡部・鬼形	4.47.55
3	ﾐｻｶﾚｰｼﾝｸﾞ	蓮見・有賀・工藤・菅原	4.56.21
4	ﾅｶｶﾞﾜFET	中田・福田・小林・藤田	4.57.16
5	ﾏﾘﾝｺﾞｰﾙﾄﾞ	山田・中山・篠原・矢野	5.02.58
6	三菱化学物流	三宅・日浅・緒方・藤原	5.02.59

男子ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	ｻｲｸﾙｸﾗﾌﾞFET	百々・矢野・池田	1.04.41
2	三菱化学物流	三宅・在本・吉田	1.04.78
3	ﾊﾟｲﾝﾋﾙｽﾞ'90	朝倉・木村・沢口	1.07.14
4	ﾏｯﾄﾍﾞﾛｰﾁｪ	丸山・中村・鈴木	1.07.98
5	栃木ｸﾗﾌﾞ	小田倉・矢野・中川	1.07.738
6	ﾓﾅｺ	嘉納・仲松・川畑	1.08.192

女子500mﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ

1	大菅　淳子	三協精機	39.329
2	濱田　真子	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛ	41.779
3	村中恵美子	千葉医療福祉学校	42.07
4	赤沢　佳美	三菱化学物流ﾚｰｼﾝｸﾞ	42.32
5	西　加南子	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛﾊﾟｰﾙｲｽﾞﾐ	42.536
6	谷村祐美子	VELOCICTAﾊﾟｰﾙ	42.86

女子3km個人追抜競走

1	大塚　歩	A+00	3:58.225
2	唐見実世子	ﾋﾟｰｽﾎﾟﾙﾄBikeSys	4:04.923
3	村中恵美子	千葉医療福祉学校	4:06.176
4	杉村　久美	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛﾊﾟｰﾙｲｽﾞﾐ	4:07.428
5	小野山恵美	ｴｷｯﾌﾟﾕｰﾚｰｼﾝｸﾞ	4:15.134
6	西　加南子	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛﾊﾟｰﾙｲｽﾞﾐ	4:19.332

女子ﾎﾟｲﾝﾄﾚｰｽ（10km）

1	大塚　歩	A+00	23p
2	杉村　久美	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛﾊﾟｰﾙｲｽﾞﾐ	16p
3	村中恵美子	千葉医療福祉専門学校	10p
4	小野山恵美	ｴｷｯﾌﾟﾕｰﾚｰｼﾝｸﾞ	(-1Lap)2p
5	濱田　真子	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛﾊﾟｰﾙｲｽﾞﾐ	(-1Lap)1p
6	西　加南子	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛﾊﾟｰﾙｲｽﾞﾐ	(-1Lap)1p

文部科学大臣杯 第58回 全日本大学対抗選手権

トラック ：8月30日～9月1日　静岡県田方郡修善寺町「日本競輪学校」333.33mバンク
ロード：9月2日　静岡県田方郡修善寺町「日本サイクルスポーツセンター」特設8km周回コース

団抜優勝の日本大学

高校生における“インターハイ”と同様に、年間を通じて学生最大規模を誇る大会である“インカレ”は、今年３年振りの修善寺開催となった。４日間の開催期間中は晴天に恵まれ、暑いながらも良好なコンディションで開催できたことは幸いであった。

さて、既に本大会男子総合19連覇中の日本大学に対して、各校がどのように挑むかが注目されたが、今年は特に日本大学が創部50周年の記念すべき年でもあり、総力を結集して激戦を展開した。その結果、近年はトラック競技で法大や中大などのライバル校に、種目別優勝を奪われることが多かったが、今年は、全８種目中、５種目において優勝を飾り、他を圧倒した。一方、ロード競技でも登りを延長したCSC特設8kmコースの厳しい設定の中、上位10名入賞中６名を占めた日大勢の圧勝であった。このロードでの大量得点も加わり、男子総合は日本大学の20連覇という偉業が達成された。また女子は鹿屋体育大、順天堂大、八戸大、明治大らによる混戦模様となったが鹿屋体育大の遠藤が個人２種目制覇、許斐も出場種目にて着実に入賞の活躍を見せ、女子総合は鹿屋体育大が初優勝を飾った。

【男子トラックレース】

スプリント。決勝の対戦は樫山（日大）と篠原（中大）、今年も日大と中大の対戦となった。両者互角の好勝負を展開し、３回戦まで息をのむ接戦となったが、昨年８位の樫山が大躍進、初優勝を飾った。

1kmタイムトライアルは1分07秒～08秒台の混戦となったが、今年スプリントでは３位に甘んじた竹澤（日大）が、２年ぶりの優勝を飾った。今後は更に、記録的にも学生短距離陣の奮起に期待したい。

今や大学だけの実施種目となった**タンデムスプリント**は、２人のチームワークの良さからか、法大がインカレ３連覇中であった。しかし今年の日大ペアは、この雪辱を果たすべく素晴らしいコンビネーションを見せ、準決勝まで全てストレート勝ち、決勝でも巧みな戦術により関西大を下して、４年ぶりにタイトルを奪取した。

4km個人追抜競走は、黒木（法大）に対し伊藤（日大）がどう戦うかが注目されたが、両者を抑えて予選トップタイムを出したのが浦門（中京大）である。伊藤との決勝でも冷静に後半追い上げ、今回ただ１人、4分40秒台をマーク、インカレ初優勝を果たした。

今年からの新ルールにより得点勝負となった**ポイントレース**は、序盤から得点を重ねた西谷（日大）を他校が追う展開となった。高島（中大）を中心に積極果敢な掛け合いを展開するが各校１名という中での牽制もあり、なかなか差は縮まらない。結局、実に６回もの１着を獲得した西谷が圧勝、昨年４位に敗れた雪辱を果たした。

チームスプリント。入賞常連校である中大、東北学院大を抑えて優勝したのは順大チームである。ここ数年で着実に力をつけて来たチームであるが、念願の男子種目でのインカレ初優勝に、順大ナインも歓喜に湧いた。

4km団体追抜競走は、昨年までの決勝を見る限り法大対日大の一騎打ちと予想された。しかしチームの好調ぶりを象徴するように、今年の日大勢は決勝でも終始リードのまま３年ぶりの優勝を飾った。

【女子トラックレース】

今年は完全に、短距離では遠藤（鹿屋体育大）対中尾（筑波大）、中・長距離では坂井田（八戸大）対斎藤（順大）の戦いとなった。今回のように女子トラック種目では上位が同メンバーとなることが多いのが現状であり、今後より混戦によるレベルアップが望まれるところである。

各種目の決勝は上記４名を中心に展開され、遠藤が**スプリント**と**500mタイムトライアル**を、坂井田が**3km個人追抜**と**ポイントレース**をそれぞれ制し、他を圧倒する活躍を見せた。

男子ポイントレース

男子個人ロードレースのスタート

【男子個人ロードレース】

今回の8km特設コースは、従来のCSC 5kmコースに比べより本格的な登りが設定されており非常に過酷なコース。日頃の練習量が不足していれば完走すら難しく、サバイバルレースが予想された。レースも中盤に差し掛かると集団が少人数となって行き、日大勢が大半を占める集団を完全に日大がコントロール。ゴール勝負では、圓谷（日大）と土井（法大）の勝負となったが、集団で足をためていた圓谷がスパート。インカレロード２回目の優勝を飾った。

終わってみれば、今年もロードレースは上位10名入賞中６名を日大勢が占め、「日大１強」を強くアピールする結果となった。

【女子個人ロードレース】

女子は中盤から大塚（明大）、坂井田（八戸大）、許斐（鹿屋体育大）、斉藤（順天堂大）の４名に勝負が絞られた。最終２名のゴールスプリントまでもつれたが、許斐をわずかに抑えて大塚が念願のインカレ初優勝を飾った。４年最後のインカレ、最終種目での優勝に、表彰式での涙が印象的であった。

（倉田 達樹）

［競技結果］

男子ｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	樫山新太郎	日本大学	
2	篠原　　忍	中央大学	
3	竹沢　浩司	日本大学	
4	小野　旭裕	京都産業大学	
5	牧野真左彦	東北学院大学	
6	園田　鉄兵	北海学園北見大学	

男子1kmﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ

1	竹沢　浩司	日本大学	1:07.734
2	川村　　崇	早稲田大学	1:08.027
3	伊藤　太一	日本大学	1:08.534
4	黒木　裕介	法政大学	1:08.868
5	小倉　知幸	東北学院大学	1:09.623
6	牧野真左彦	東北学院大学	1:09.624

男子ﾎﾟｲﾝﾄﾚｰｽ（30km）

1	西谷　泰治	日本大学	46p
2	高島　　豪	中央大学	28p
3	佐藤　佑一	順天堂大学	27p
4	石崎　和寿	東北学院大学	25p
5	浅野　英明	早稲田大学	23p
6	片山　智晴	法政大学	20p

男子ｹｲﾘﾝ

1	小堺　浩二	京都産業大学
2	菅野　祥憲	立教大学
3	北野　大地	東北学院大学
4	菊地　隼人	日本大学
5	平岡　靖章	北海学園北見大学
6	島田　迅人	大阪経済大学

男子4km個人追抜競走

1	浦門　義人	中京大学	4:49.473
2	伊藤　太一	日本大学	4:55.403
3	黒木　裕介	法政大学	4:55.818
4	清水　良行	京都産業大学	5:05.916
5	佐藤　祐一	順天堂大学	5:03.509
6	親川　泰典	明治大学	5:07.431

男子ﾀﾝﾃﾞﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	前田・西村	日本大学
2	吉井・吉田	関西大学
3	清水・野口	順天堂大学
4	田辺・工藤	東北学院大学
5	山口・小野木	法政大学
6	平林・川村	早稲田大学

男子4km団体追抜競走

1	日本大学	吉野・明珍多・盛・吉田	4:32.948
2	法政大学	岡田・黒木・柴田・明珍周	4:35.971
3	京都産業大	福本・小堺・清水・辻	4:43.234
4	中京大学	浦門・三浦・向川訓・葛谷	4:44.646
5	立命館大	向川尚・上田・山本・櫻井	4:43.863
6	早稲田大	浅野・江口・平林・川村	4:46.249

男子ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	順天堂大学	清水・佐藤・野口	1:06.760
2	東北学院大	牧野・小倉・小池	1:07.057
3	中央大学	松永・高島・小林）	1:08.060
4	関西大学	吉井・吉田・陸野	1:12.084
5	明治大学	中川・高森・花澤	1:08.374
6	北陸大学	山我・三浦・村形）	1:09.383

男子個人ﾛｰﾄﾞﾚｰｽ（88km）

1	圓谷　　崇	日本大学	2:53:34
2	土井　雪広	法政大学	2:53:40
3	盛　　一大	日本大学	2:53:52
4	小椋　康寛	日本大学	2:53:54
5	小笠原　豪	日本大学	2:54:25
6	鈴木　謙一	法政大学	2:54:34
7	西村　拓朗	京都大学	2:55:17
8	Dirk Wowerat	立教大学	2:55:40
9	普久原　奨	日本大学	2:55:44
10	小野寺孝太	日本大学	2:55:59

女子ｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	遠藤　友子	鹿屋体育大学
2	中尾　友美	筑波大学
3	藤原亜衣里	法政大学
4	仁藤ひろみ	明治大学
5	小野　翔子	明治大学
6	遠山　　恵	順天堂大学

女子500mﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ

1	遠藤　友子	鹿屋体育大学	38.221
2	中尾　友美	筑波大学	39.691
3	遠山　　恵	順天堂大学	41.149
4	仁藤ひろみ	明治大学	41.260
5	松永　舞美	法政大学	41.296
6	斉藤　綾	順天堂大学	41.329

女子ﾎﾟｲﾝﾄﾚｰｽ

1	坂井田理沙	八戸大学	22p
2	斉藤　　綾	順天堂大学	18p
3	松永　舞美	法政大学	14p
4	藤原亜衣里	法政大学	9p
5	許斐真由子	鹿屋体育大学	6p
6	中村　珠藻	順天堂大学	6p

女子3km個人追抜競走

1	坂井田理沙	八戸大学	4:07.545
2	斉藤　　綾	順天堂大学	4:08.116
3	許斐真由子	鹿屋体育大学	4:13.311
4	中村　珠藻	順天堂大学	4:18.657
5	松永　舞美	法政大学	4:22.656
6	青木千江子	前橋育英短期大	4:25.511

女子個人ﾛｰﾄﾞﾚｰｽ（32km）

1	大塚　恵美	明治大学	1:08:40
2	許斐真由子	鹿屋体育大学	1:08:41
3	斉藤　　綾	順天堂大学	1:08:55
4	坂井田理沙	八戸大学	1:09:51
5	中村　珠藻	順天堂大学	1:15:03
6	前川　康子	明治大学	1:17:48
7	松永　舞美	法政大学	1:18:44
8	兼子　明子	鹿屋体育大学	1:19:36
9	小野　翔子	明治大学	1:21:17
10	玉城　さち	鹿屋体育大学	1:23:04

総合成績

男子（ﾄﾗｯｸ＋ﾛｰﾄﾞ）

1	日本大学	69＋48＝117p
2	法政大学	27＋22＝49p
3	東北学院大学	36＋0＝36p
4	京都産業大学	29＋1＝30p
5	順天堂大学	27＋0＝27p
6	中央大学	20＋3＝23p

女子（ﾄﾗｯｸ＋ﾛｰﾄﾞ）

1	鹿屋体育大学	12＋5＝17p
2	順天堂大学	9＋6＝15p
3	八戸大学	10＋3＝13p

第10回 三笠宮杯 ツール・ド・とうほく

昭和27年に産声を上げた「三笠宮杯東北一周自転車競走大会」の歴史を受け継ぐ「第10回三笠宮杯ツール・ド・とうほく」が8月15日から18日まで、男子高校生の部（22チーム）と女子の部（7チーム）が参加し、3日間の熱いステージレースが繰り広げられた。

男子高校生個人総合は第1ステージで１位、第3ステージで2位となった西村光太（三重高校）が二年生ながら堂々の優勝。女子の部個人総合は大塚　歩（JCFチーム）が全ステージを制して優勝。団体総合男子は近畿高体連選抜の池田丈志（北大和高）・前田雅則（和歌山北高）・松村光浩（紀北工業高）が安定した実力を発揮し優勝した。

今年女子は連盟からの参加の呼びかけもあり7チームが参加。ニューフェイスとしてはトライアスロンチームが参戦し昨年に比べ人数も増えレースの方もらしくなった。個人総合優勝した大塚　歩を中心としたJCFチームが貫禄の団体優勝を飾った。

今年から残念ながら男子エリートの部が無くなったが、国内唯一である高校生男子、女子のステージレースをとうほくの地から消さないためにご協力いただいた河北文化事業団や関係者のみなさまに心から感謝申し上げます。

男子高校生（上）と女子の団体総合優勝チーム

宮城ステージ（男子高校生）

[競技結果]

男子高校生の部

第1ｽﾃｰｼﾞ山形（36.62km）

1	西村	光太	三重	三重高校	1:59:17
2	池田	丈志	奈良	近畿高体連	1:59:17
3	天沼	雅貴	北海道	全国高体連B	1:59:17
4	松村	光浩	和歌山	近畿高体連	1:59:17
5	成田	将平	青森	八戸工業高	2:01:46
6	宗前	裕太	青森	八戸工業高	2:01:55
7	長沼	隆行	埼玉	小松原高校	2:01:55
8	寺林	正秋	宮城	古川工業高	2:01:55
9	寺川	慧	広島	国際学院高	2:01:55
10	谷垣	雄基	京都	北桑田高校	2:01:55

第2ｽﾃｰｼﾞ岩手（77.6km）

1	中島	康晴	福井	科学技術高	2:01:38
2	吉成	晃一	熊本	開新高校	2:01:44
3	和田	圭	宮城	古川工業高	2:02:16
4	寺林	正秋	宮城	古川工業高	2:02:16
5	矢代	慎吾	富山	氷見高校	2:02:16
6	児玉	瑛介	宮城	全国高体連B	2:02:16
7	池田	丈志	奈良	近畿高体連	2:02:16
8	谷垣	雄基	京都	北桑田高校	2:02:16
9	伊原	弘幸	福井	科学技術高	2:02:16
10	天沼	雅貴	北海道	全国高体連B	2:02:16

第3ｽﾃｰｼﾞ仙台（90.0km）

1	辻	善光	京都	全国高体連A	2:18:55
2	西村	光太	三重	三重高校	2:18:55
3	笹原	裕	山形	村山農業高	2:18:58
4	成田	将平	青森	八戸工業高	2:19:19
5	松村	光浩	和歌山	近畿高体連	2:21:58
6	坂本	昌宏	青森	八戸工業高	2:22:17
7	前田	雅則	和歌山	近畿高体連	2:22:19
8	後藤	仁志	熊本	開新高校	2:22:19
9	中島	康晴	福井	科学技術高	2:22:19
10	寺林	正秋	宮城	古川工業高	2:22:19

個人総合成績

1	西村	光太	三重	三重高校	6:20:08
2	成田	将平	青森	八戸工業高	6:23:21
3	松村	光浩	和歌山	近畿高体連	6:23:31
4	天沼	雅貴	北海道	全国高体連B	6:23:45
5	池田	丈志	奈良	近畿高体連	6:23:46
6	中島	康晴	福井	科学技術高	6:25:48
7	長沼	隆行	埼玉	小松原高校	6:26:28
8	寺林	正秋	宮城	古川工業高	6:26:30
9	谷垣	雄基	京都	北桑田高校	6:26:30
10	宗前	裕太	青森	八戸工業高	6:26:30

団体総合成績

1	近畿高体連選抜	12:47:23
2	八戸工業高校	12:49:49
3	全国高体連選抜Ｂ	12:50:22

女子の部

第1ｽﾃｰｼﾞ山形（54.6km）

1	大塚	歩	JCFﾁｰﾑ	1:35:29
2	村中恵美子		千葉医療福祉学校	1:36:21
3	坂井田理沙		ｽﾐﾀ･ﾗﾊﾞﾈﾛ･ﾊﾟｰﾙ	1:38:08
4	小野山恵美		千葉医療福祉学校	1:38:11
5	斎藤	綾	JCFﾁｰﾑ	1:38:15
6	杉村	久美	ｽﾐﾀ･ﾗﾊﾞﾈﾛ･ﾊﾟｰﾙ	1:40:09
7	西	加南子	ｽﾐﾀ･ﾗﾊﾞﾈﾛ･ﾊﾟｰﾙ	1:40:55
8	中村	珠藻	JCFﾁｰﾑ	1:40:55
9	許斐真由子		学連選抜	1:41:05
10	佐藤	智子	ALPHAWK	1:42:22

第2ｽﾃｰｼﾞ岩手（48.5km）

1	大塚	歩	JCFﾁｰﾑ	1:23:13
2	中村	珠藻	JCFﾁｰﾑ	1:23:14
3	村中恵美子		千葉医療福祉学校	1:23:14
4	西	加南子	ｽﾐﾀ･ﾗﾊﾞﾈﾛ･ﾊﾟｰﾙ	1:23:17
5	許斐真由子		学連選抜	1:23:17
6	斎藤	綾	JCFﾁｰﾑ	1:23:20
7	小野山恵美		千葉医療福祉学校	1:23:20
8	杉村	久美	ｽﾐﾀ･ﾗﾊﾞﾈﾛ･ﾊﾟｰﾙ	1:23:24
9	坂井田理沙		ｽﾐﾀ･ﾗﾊﾞﾈﾛ･ﾊﾟｰﾙ	1:25:38
10	佐藤	智子	ALPHAWK	1:25:38

第3ｽﾃｰｼﾞ仙台（90.0km）

1	大塚	歩	JCFﾁｰﾑ	1:39:39
2	村中恵美子		千葉医療福祉学校	1:39:54
3	斎藤	綾	JCFﾁｰﾑ	1:40:07
4	坂井田理沙		ｽﾐﾀ･ﾗﾊﾞﾈﾛ･ﾊﾟｰﾙ	1:42:52
5	西	加南子	ｽﾐﾀ･ﾗﾊﾞﾈﾛ･ﾊﾟｰﾙ	1:42:53
6	中村	珠藻	JCFﾁｰﾑ	1:42:53
7	許斐真由子		学連選抜	1:42:59
8	小野山恵美		千葉医療福祉学校	1:43:49
9	中川	絵理	ﾁｰﾑﾄﾗｲｱｽﾛﾝ	1:45:18
10	佐藤	智子	ALPHAWK	1:45:18

個人総合成績

1	大塚	歩	JCFﾁｰﾑ	4:37:43
2	村中恵美子		千葉医療福祉学校	4:39:08
3	斎藤	綾	JCFﾁｰﾑ	4:41:35
4	小野山恵美		千葉医療福祉学校	4:45:20
5	坂井田理沙		ｽﾐﾀ･ﾗﾊﾞﾈﾛ･ﾊﾟｰﾙ	4:46:34
6	中村	珠藻	JCFﾁｰﾑ	4:46:56
7	西	加南子	ｽﾐﾀ･ﾗﾊﾞﾈﾛ･ﾊﾟｰﾙ	4:47:04
8	許斐真由子		学連選抜	4:47:21
9	杉村	久美	ｽﾐﾀ･ﾗﾊﾞﾈﾛ･ﾊﾟｰﾙ	4:48:50
10	佐藤	智子	ALPHAWK	4:53:18

団体総合成績

1	JCFﾁｰﾑ	9:19:57
2	千葉医療福祉専門学校・ｷﾖ	9:24:49
3	ｽﾐﾀ･ﾗﾊﾞﾈﾛ･ﾊﾟｰﾙｲｽﾞﾐ	9:30:43

第19回シマノ鈴鹿国際ロードレース

あと1周の鐘をうける、1位Renco van der Ven（左）と4位田代

レース中盤のトップ集団（先頭がウイナー）

スタート前の海外招待選手

夏休み最後の土・日、三重県の鈴鹿サーキットでシマノ鈴鹿ロードが開催された。2日目の9月1日にはJCF共催の国際ロードが5.9kmのサーキット10周で行われた。前日は台風の影響か時折大雨に見舞われたが、この日は何とか持ち直し、国内外の招待選手を含む215名が午後2時30分にスタートした。

最終周にはホストチームの阿部が後続集団から追い上げ健闘したが、ゴールスプリントを制したのはオランダBankgiroloterij の Renco van der Ven であった。

［競技結果］

1	Renco van der Ven	NED	Bankgiroloterij	1:21:33.30
2	水谷　壮宏	JPCA	ﾌﾞﾘﾁﾞｽﾄﾝ	1:21:33.67
3	今西　尚志	京都	ｼﾏﾉ	1:21:33.99
4	田代　恭崇	JPCA	ﾌﾞﾘﾁﾞｽﾄﾝ	1:21:34.79
5	飯島　　誠	JPCA	ﾗﾊﾞﾈﾛ	1:21:36.63
6	阿部　良之	JPCA	ｼﾏﾉﾚｰｼﾝｸﾞ	1:21:36.80
7	Pavel Nevdakh		ORBEA	1:21:37.45
8	Vincent van der Kooy	NED	Bankgiroloterij	1:21:44.69
9	柿沼　　章	JPCA	GIANT	1:22:01.61
10	狩野　智也	JPCA	ｼﾏﾉﾚｰｼﾝｸﾞ	1:22:01.65

2002年マウンテンバイク世界選手権

8月27日から9月1日までオーストラリア・カプルンにて2002年マウンテンバイク世界選手権大会が開催された。

日本選手団は8月25日成田を出発し、翌26日現地会場に入った。日本の残暑の厳しさに比べると暑くもなく寒くもなくちょうど良い気候であった。ダウンヒルまでは地元の人達がよく晴れの日が続くと言っていたぐらい天候に恵まれいていたが、クロスカントリーの行われた9月1日は激しい豪雨となり、日本選手は普段経験したことのない長いのぼりとアップダウンのあるコースに、ほとんど乗車不可能と思われるコースを泥だらけになりながら走った。

今回の世界選手権では上位を予想していた選手が苦戦を強いられた様子であった。日本選手では、昨年ジュニア世界チャンピオンに輝いた末政実緒がダウンヒルでは17位であったが、新種目4クロスに出場し、ファイナルには残れなったが見事6位に入賞した。

また、クロスカントリーU23世界選初参加の白石真悟はトレーニング中に転倒しケガをしたが、小笠原崇裕と共に完走した。

今回若手の選手も成績を残すことができ、まもなく開催される4年に一度のアジア大会(韓国・釜山)では、日本選手団の活躍が見られることを期待したい。

［競技結果］

XC男子ｴﾘｰﾄ（33.60km）

1	GREEN Roland	CAN	2:19:02
2	MEIRHAEGHE Filip	BEL	2:19:21
3	FRISCHKNECHT Thomas	SUI	2:20:47
49	山口　孝徳	JPN	2:44:35
68	竹谷　賢二	JPN	-1Lap
77	鈴木　雷太	JPN	-2Laps

XC男子U23（28.80km）

1	ABSALON Julien	FRA	1:59:01
2	NAEF Ralph	SUI	2:01:33
3	HESJEDAL Ryder	CAN	2:02:34
55	白石　真悟	JPN	-1Lap
58	小笠原崇裕	JPN	-1Lap

XC男子ｼﾞｭﾆｱ（21.60km）

1	LOWE Trent	AUS	1:17:14
2	TROFIMOV Iouri	RUS	1:19:12
3	LONGO Tony	ITA	1:19:27
38	宮本　優	JPN	1:28:33

XC女子ｴﾘｰﾄ（28.80km）

1	DAHLE Gunn-Rita	NOR	2:14:05
2	SZAFRANIEC Anna	POL	2:15:28
3	SPITZ Sabine	GER	2:16:53
24	南部　博子	JPN	2:36:28

XC女子ｼﾞｭﾆｱ（16.60km）日本不出場

1	MATHISON Lisa	AUS	1:14:08
2	OSL Elisabeth	AUT	1:16:39
3	BUBLOVA Petra	CZE	1:17:43

DH男子ｴﾘｰﾄ（3.20km）

1	VOUILLOZ Nicolas	FRA	5:08.53
2	PEAT Steve	GBR	5:09.07
3	KOVARIK Chris	AUS	5:13.88
43	井手川直樹	JPN	5:40.19
64	内嶋　亮	JPN	5:52.52
80	丸山　弘起	JPN	6:05.07

DH男子ｼﾞｭﾆｱ（3.20km）

1	HILL Sam	AUS	5:22.01
2	ATHERTON George	GBR	5:23.62
3	HAVUKAINEN Justin	AUS	5:24.62
47	青柳修一郎	JPN	6:05.80

DH女子ｴﾘｰﾄ（3.20km）

1	CHAUSSON Anne Caroline	FRA	5:45.58
2	GRIFFITHS Fionn	GBR	5:52.18
3	GIOVE Missy	USA	5:56.14
17	末政　実緒	JPN	6:21.34
26	増田　まみ	JPN	6:46.75

DH女子ｼﾞｭﾆｱ（3.20km）日本不出場

1	RAGOT Emmeline	FRA	6:27.35
2	BAUCHET Claire	FRA	6:34.94
3	MARGGRAFF Diana	ECU	6:38.30

4X男子

1	LOPES Brian	USA
2	GRACIA Cedric	FRA
3	CARTER Eric	USA
35	井手川直樹	JPN
39	高松　健二	JPN

4X女子

1	CHAUSSON Anne Caroline	FRA
2	MILLER Katrina	AUS
3	JONNIER Sabrina	FRA
6	末政　実緒	JPN

2002年マウンテンバイク世界選手権 日本代表選手

大会開催日　2002年8月27日～9月1日
開 催 場 所　オーストリア・カプルン
代表選手団
選　手
XC男子ｴﾘｰﾄ 鈴木　雷太(長野)・竹谷　賢二(千葉)・山口　孝徳(埼玉)
XC男子U23 小笠原崇裕(長野)・白石　真悟(大阪)
XC男子ｼﾞｭﾆｱ 宮本　優(千葉)
XC女子ｴﾘｰﾄ 南部　博子(長野)
DH男子ｴﾘｰﾄ 内嶋　亮(東京)・井手川直樹(広島)・丸山　弘起(長野)
DH男子ｼﾞｭﾆｱ 青柳修一郎(東京)
DH女子ｴﾘｰﾄ 末政　実緒(兵庫)・増田　まみ(埼玉)
4X男子　高松　健二(兵庫)
スタッフ
監　督　杉山　喜一
ﾒｶﾆｯｸ　仁木　康夫・白井　三善

第５回アジア室内自転車競技選手権

8月17日、千葉県沼南町において中国香港、マレーシア、中国マカオ等から選手役員を迎えてサイクルサッカー、サイクルフィギュアのアジア選手権大会が日本で初めて開催された。大会には地元沼南町や柏市等から通訳等のボランティアが多数参加して頂いた他、開会式には沼南町町長に挨拶を頂く等、地元関係者の熱意によって一般来場者も多数訪れ、大変盛り上がった大会となった。本大会で行われるのはサイクルフィギュアが男女別にジュニアシングル、シングル、ペアの６種目とサイクルサッカーの１種目の合計７種目である。サイクルフィギュアは小学生からトレーニングを始める中国香港や中国マカオが強く、ほとんどの選手が大学から競技を始める日本は、残念ながらジュニア種目のエントリーは出来なかった。ジュニアシングルの男子は中国香港のユー、女子はアジア新記録を出した中国マカオのクアンがそれぞれ優勝した。ペア競技は２人の選手が前半を２台、後半を１台の自転車で競うもので、女子はアジア新記録を出した中国香港のロー・ムイ組が優勝し、昨年の世界選手権でアジア記録を出した小野寺千春・堀井和美組は堀井の怪我で得点が伸びず、中国マカオペアに続き３位となった。男子ペア種目には日本はエントリーしておらず、優勝は５連覇となった中国香港のユー・ユー組。シングルの女子は、ペアでも優勝した中国香港のユーがアジア新記録で４連覇を果たし、日本新記録を出した小野寺が第２位、宮崎沙織は６位となった。男子はペアを制した中国香港のユーが３連覇を果たし、佐浦裕行は昨年に続き４位、永井隆は７位となった。サイクルサッカーは、日本が４連覇中で、今年も学生チャンピオンを派遣して５連覇を目指して中国香港やマレーシアと対戦した。試合は同一相手と２回対戦するリーグ戦方式で行われ、３カ国とも実力伯仲の好ゲームを展開した結果、３カ国が２勝２敗の同一勝ち点で並んだが、対中国香港の初戦を１対５で大敗した日本が得失点差で３位となり、大勝した中国香港が初優勝した。会場となった沼南町総合体育館には子供連れの一般観戦者が多く訪れ、室内自転車競技の妙技に歓声を上げていた。　（植本昌之）

［競技結果］

ｻｲｸﾙﾌｨｷﾞｭｱｼﾝｸﾞﾙ女子

1	Yu,Lok Chee	HKG	275.27
2	小野寺 千春	JPN	265.53
3	Mui,Ho Yee	HKG	247.49
6	宮崎 沙織	JPN	221.53

ｻｲｸﾙﾌｨｷﾞｭｱﾍﾟｱ女子

1	Lo,Wai Man/Mui,Ho Yee	HKG	241.82
2	Kuan Sok Mui/Lou Weng Cheng	MAC	236.25
3	堀井　和美/小野寺千春	JPN	224.49

ｻｲｸﾙﾌｨｷﾞｭｱｼﾝｸﾞﾙ男子

1	Yu,Sum Yee	HKG	296.62
2	Yu,Hok Yee	HKG	289.00
3	Wong Hang Cheong	MAC	286.93
4	佐浦 裕行	JPN	264.93
7	永井　隆	JPN	215.35

ｻｲｸﾙｻｯｶｰ

1 Hong Kong　2 Malaysia　3 日本

サイクルサッカー・ワールドカップ アジア大会

8月18日に千葉県沼南町で開催された大会は、来年２月にドイツのボブリンゲン市で開催されるサイクルサッカーワールドカップのアジア地区予選大会で、世界各地で行われる予選大会の１つである。予選大会に出場するには、各国連盟からCIS（国際室内自転車競技委員会）に推薦され、CISから出場を指示される必要があり、今回はアジアから6チーム、ヨーロッパから2チームが出場を指示された。来年の本大会に出場できるのは、国籍に関係なく、予選大会で獲得したポイントの順位が各地区の出場枠内に入ったチームだけのため、強豪国から数チームが出場する場合もあり、ワールドカップ本大会は世界選手権以上のハイレベルになることが予想される。アジア地区予選大会に出場したのは、チェコ、ドイツ、中国香港、マレーシアから各１チームと、日本４チームの計８チームである。試合はリーグ戦で行う予選と、各予選の上位２チームによる決勝トーナメント、各予選の下位２チームによる順位決定戦によって順位が決定し、ポイントを獲得する。アジア地区の出場枠は「1」であり、アジア勢の最上位チームがアジア地区の代表としてドイツの本大会に出場できることになっている。予選の結果、グループ Iではドイツと日本1が、グループ IIではチェコと日本2がそれぞれ準決勝に進出し、５～６位決定戦は日本4対日本3、７～８位決定戦は中国香港対マレーシアとなった。準決勝では今年の世界選手権代表の日本1（都築勝巳・松田鋼）がチェコと対戦し、１点差を争う好ゲームを展開したものの6対4で惜敗した。もう一方の準決勝でも、元日本代表の日本2（現王園仁志・手島敏光）が、動きの早いドイツに敗れ、来年の本大会出場を懸けた３～４位決定戦は、日本1が延長戦の末に日本2を破って出場権を獲得した。優勝は5対0でドイツを下したチェコ。５位以下は日本4（宮本武彦・木下直也）、日本3（森茂史・黒田岳）、マレーシア、中国香港の順になった。

（植本昌之）

［競技結果］

1	CZE	Radim Hasan	Pavel Loskot
2	GER	Thomas Abel	Jens Haüser
3	日本1	都築　勝巳	松田　　鋼
4	日本2	現王園仁志	手島　敏光
5	日本4	木下　直也	宮本　武彦
6	日本3	森　　茂史	黒田　　岳
7	MAS	Zulkfle Senin	Samsinat Abdul
8	HKG	Ho Wing Tai	Lo Man Fai

競技大会
結　果

大会名・チーム名等については略して記載

群馬ｶｯﾌﾟ ｻｲｸﾙﾛｰﾄﾞﾚｰｽ
（7/20 群馬CSC）

BR-1（102km）

1	広瀬	敏	石川	日本鋪道	2:31:09.77
2	飯島	誠	JPCA	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛ	2:31:11.19
3	真鍋	和幸	JPCA	ﾐﾔﾀ・ｽﾊﾞﾙ	2:31:13.29
4	狩野	智也	JPCA	ｼﾏﾉﾚｰｼﾝｸﾞ	2:31:14.13
5	岡田	哲也	JPCA	ﾌﾞﾘﾁﾞｽﾄﾝ	2:32:07.21
6	坂口	博	愛知	愛三工業	2:34:14.70
7	高野	篤	東京	Vitesse	2:34:38.03
8	阿部	良之	JPCA	ｼﾏﾉﾚｰｼﾝｸﾞ	2:34:54.47
9	新保	光起	JPCA	愛三工業	2:34:59.35
10	行成	秀人	岡山	ﾐﾔﾀ・ｽﾊﾞﾙ	2:34:59.54

BR-2（60km）

1	岡本	健	和歌山	ﾁｪﾌﾞﾛ	1:33:57.38
2	土井	雪広	法大	ﾏｯﾄﾍﾞﾛｰﾁｪ	1:33:57.43
3	堀川	大地	法大	ﾏｯﾄﾍﾞﾛｰﾁｪ	1:33:59.65
4	中島	剛	愛知	BREZZA	1:34:00.04
5	西村	尚文	法大	ﾏｯﾄﾍﾞﾛｰﾁｪ	1:34:00.27
6	沼田	信也	神奈川	ORBEA	1:34:00.42
7	柴田	祐也	法大	ﾏｯﾄﾍﾞﾛｰﾁｪ	1:34:00.48
8	鳴川将一郎		兵庫	ﾅｶｶﾞﾜFET	1:34:00.52
9	佐藤	克幸	北海道	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛ	1:34:00.61
10	木庭	翔吾	法大	ﾏｯﾄﾍﾞﾛｰﾁｪ	1:34:00.66

BR-3（48km）

1	石川	紀隆	東京	ﾗﾊﾞﾈﾛ	1:14:14.95
2	安原	興志	東京	たかだF.	1:14:15.12
3	新川	秀明	東京	なるしま	1:14:21.73
4	池田勝之助		東京	SPLENDOR	1:14:21.94
5	中里	聡史	埼玉	ALPHAWK	1:14:22.15
6	仮谷	将伸	東京	BMﾚｰｼﾝｸﾞ	1:14:22.21
7	宗吉	貞幸	千葉	ｽﾎﾟﾙﾄﾋﾟｰﾉ	1:14:22.25
8	青木	誠	東京	ｾﾚｰﾉﾔﾏﾀﾞ	1:14:22.30
9	戸田	誠	東京	日野自動車	1:14:22.31
10	石黒	大樹	山形	ﾍﾞﾛｸﾗﾌﾞ福島	1:14:22.34

BM-2（48km）

1	齋藤	道明	福島	ORBEA	1:15:33.64
2	関谷	晃一	東京	YUKIRIN	1:15:34.83
3	続木	健二	奈良	ﾅｶｶﾞﾜFET	1:15:41.85
4	本田	雅昭	東京	YUKIRIN	1:15:41.95
5	今井	靖治	京都	Zippy	1:15:42.07
6	氏原	寛泰	静岡	SPADE・A	1:15:42.20
7	新沼	光	埼玉	GATTA	1:15:42.23
8	宮村	優	石川	ﾄﾝﾃﾞﾓｸﾗﾌﾞ	1:15:42.25
9	倉田	眞秀	東京	日野自動車	1:15:42.36
10	漆原	隆英	福井	ﾊﾟｲﾝﾋﾙｽﾞ	1:15:42.40

BM-3（30km）

1	小坂	正則	長野	ｽﾜｺﾚｰｼﾝｸﾞ	46:29.67
2	高木	雅之	愛知	Verdad	46:35.23
3	高田	雄二	東京	たかだﾌﾚﾝﾄﾞ	46:35.66
4	星野	健一	愛知	LEGNO Sp.	46:35.78
5	大野二美雄		東京	SPLENDOR	46:35.82
6	布施	知洋	埼玉	ﾘﾍﾞﾙﾀｽTBC	46:36.01
7	松井	直樹	大阪	ﾁｰﾑｱｶﾏﾂ	46:36.48
8	小谷	司	東京	ﾁｰﾑﾘﾏｻﾝｽﾞ	46:36.75
9	佐藤	成彦	千葉	BMﾚｰｼﾝｸﾞ	46:37.20
10	河野	正幸	東京	ﾏﾘｱﾛｰｻﾞ	46:38.21

ジュニア（60km）

1	新田	祐大	福島	白河高校	1:35:20.66
2	山田	賢	神奈川	向上高校	1:35:20.75
3	菅井	寛之	山形	山形電波	1:35:21.19
4	渡辺	将大	群馬	前橋育英	1:35:21.20
5	島田	真琴	東京	八王子工	1:35:21.21
6	仁平	将士	栃木	真岡工高	1:35:21.32
7	村上	純平	山形	山形電波	1:35:21.64
8	池田	諒	群馬	前橋育英	1:35:22.65
9	阿部	茂徳	群馬	前橋工高	1:35:22.67
10	秋山	英也	長野	松本工高	1:35:22.85

女子（30km）

1	大塚	歩	栃木	A+00	51:11.27
2	杉村	久美	岩手	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛ	52:49.95
3	林	佐知子	東京	Vitesse	53:10.37
4	小野山恵美		愛媛	ｴｷｯﾌﾟﾕｰ	53:31.86
5	佐藤	智子	福島	ORBEA	55:08.71
6	坂田	佳子	兵庫	POLPO	55:11.87
7	中山	朋子	神奈川	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛ	55:12.18
8	塩原	桂子	東京	ﾁﾊﾞﾎﾟﾝｽﾞ	55:13.45
9	小高セツコ		埼玉	-	56:36.26
10	志村みち子		長野	あずみの	56:37.06

２００２全日本実業団ｻｲｸﾙﾛｰﾄﾞﾚｰｽin丸岡
（8/4 福井・丸岡町）

BR-1

1	品川	真寛	京都	ﾐﾔﾀｽﾊﾞﾙ	4:00:12.129
2	岡崎	和也	JPCA	日本鋪道	4:00:12.207
3	坂口	博	愛知	愛三工業	4:00:12.328
4	郡山	善貴	岐阜	愛三工業	4:00:12.425
5	岡田	哲也	JPCA	ﾌﾞﾘﾁﾞｽﾄﾝ	4:00:12.574
6	中川康二郎		茨城	ﾐﾔﾀｽﾊﾞﾙ	4:00:12.891
7	飯島	誠	JPCA	ﾗﾊﾞﾈﾛ	4:00:12.897
8	日置	大介	兵庫	ｷﾅﾝ	4:00:13.669
9	和野内公次		大阪	ﾅｶｶﾞﾜ	4:00:14.026
10	狩野	智也	JPCA	ｼﾏﾉ	4:00:14.650

BR-2

1	小泉	操	埼玉	たかだF.	1:48:08.518
2	二戸	康寛	山形	なるしま	1:48:11.377
3	本田	雅昭	東京	YUKIRIN	1:48:27.089
4	有薗	裕明	千葉	ｾｵﾚｰｼﾝｸﾞ	1:48:27.591
5	松井	正通	京都	JOTO	1:48:27.629
6	山崎	秀嗣	福井	BALBA	1:48:27.646
7	中島	雅央	大阪	267SHIMONO	1:48:27.738
8	平松	新一	愛知	SENSATIONS	1:48:27.812
9	武田	秀明	大阪	ﾅｶｶﾞﾜ	1:48:27.894
10	矢澤	真幸	京都	ﾌｰﾊﾞｰ	1:48:27.935

BR-3

1	高橋	仁	JPCA	ﾁｪﾌﾞﾛ	1:14:40.859
2	山添	悟志	神奈川	ｽｷｯﾌﾟ	1:14:41.518
3	松村	明洋	京都	Zippy	1:14:41.651
4	清水	誠悟	大阪	ｷﾅﾝｿﾚｲﾕ	1:14:41.683
5	平林	昌樹	神奈川	T-serv.	1:14:41.800
6	勝俣	真	北海道	ｵﾔﾌﾙﾋﾞﾔｰ	1:14:41.885
7	森住	秀治	愛知	大垣R.	1:14:41.909
8	後藤田	孝	福井	BALBA	1:14:41.913
9	網永	義広	大阪	本町堺	1:14:41.914
10	杉澤	康之	三重	ﾅｶｶﾞﾜ	1:14:41.968

女　子

1	大塚	歩	栃木	A+00	1:14:42.636
2	山口麻里子		福井	BALBA	1:17:48.265
3	坂田	佳子	兵庫	POLPO	1:20:41.811
4	木村	清香	福井	BALBA	1:24:28.854
5	仁藤ひとみ		福井	ｽﾜｺ	1:24:31.403
6	伊与田尚加		静岡	ﾐｿﾉｲ	1:24:36.685
7	志村みち子		長野	あずみの	1:24:36.842
8	岡野	尚美	静岡	SPADE・A	1:25:27.703
9	佐々木美恵		福井	BALBA	1:26:05.140
10	濱田	真子	東京	ﾗﾊﾞﾈﾛ	1:32:03.850

ｲｰｸﾞﾙ・ﾂｱｰ・ｵﾌﾞ・ﾏﾚｰｼｱ２００２
（8/14-18 ﾏﾚｰｼｱ UCI2-6）

個人総合成績

1	Mori,Simone	Jura Suisse Nippo	9:17:00
2	Mizbani,Iranagh Ghader	Iran National Team	9:17:52
3	Chadwick,Glen	Down Under	9:18:27
7	狩野　智也	Japan National Team	9:19:01
14	新保　光起	Japan National Team	9:20:08
16	今西　尚志	Japan National Team	9:21:07
21	柿沼　章	Giant A.R.T.	9:21:54
25	品川　真寛	Japan National Team	9:23:12
27	藤野　智一	Japan National Team	9:23:24
53	真鍋　和幸	Japan National Team	9:29:48
73	山本　泰裕	Jura Suisse Nippo	9:35:29

団体総合成績

1	Ireland National Team	27:57:33
2	Iran National Team	27:58:30
3	Austria National Team	27:58:43
4	日本ﾅｼｮﾅﾙﾁｰﾑ	28:00:08

第３６回全日本実業団対抗ｻｲｸﾙﾛｰﾄﾞﾚｰｽ
（8/24-25 長野・小川村）

BR-2（60.4km）

1	中里	聡史	埼玉	ALPHAWK	2:17:37
2	菱山	毅	東京	T-serv.	2:18:04
3	岩本竜太郎		京産大	JOAｽｷﾞﾉ	2:18:25
4	平松	新一	愛知	SENSATIONS	2:18:47
5	鈴木	良則		Team XARU	2:19:24
6	棟久	明博	山口	T-serv.	2:19:30
7	清水	裕輔	埼玉	ｴｷｯﾌﾟｱｻﾀﾞ	2:19:40
8	平林	昌樹	神奈川	T-serv.	2:20:34
9	野田	洋一	長野	ｽﾜｺﾚｰｼﾝｸﾞ	2:23:32
10	森下	繁	大阪	ｼﾏﾉﾄﾞﾘﾝｷﾝｸﾞ	2:24:46

BR-3（44.1km）

1	天笠	辰一	岐阜	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛ P.	1:38:18
2	飯野	嘉則	東京	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛ P.	1:40:02
3	大村	萬里	静岡	VIVACE	1:40:52
4	小坂	正則	長野	ｽﾜｺﾚｰｼﾝｸﾞ	1:41:09
5	徳安	建士	福岡	ﾁｴﾌﾞﾛﾗﾋﾟｽﾀ	1:41:23
6	加藤	宏幸	大阪	PCｻｲｸﾙｸﾗﾌﾞ	1:41:53
7	斉藤	寛	山梨	ｽﾜｺﾚｰｼﾝｸﾞ	1:41:58
8	諸田	展明	東京	T-serv.	1:42:27
9	大内	貴宗	沖縄	ｼｸﾛｸﾗﾌﾞｵｵﾀ	1:43:01
10	金井	慎次	静岡	SPADE・ACE	1:43:16

女子（27.8km）

1	村中恵美子		東京	千葉医療福祉	1:12:12
2	坂田	佳子	兵庫	POLPO	1:14:12
3	西	加南子	千葉	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛ P.	1:16:54
4	杉村	久美	岩手	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛ P.	1:19:28
5	中山	朋子	神奈川	ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛ P.	1:20:35
6	塩原	桂子	東京	ﾁﾊﾞﾎﾟﾝｽﾞ	1:20:48
7	木村	清香	福井	BALBA R.	1:20:58
8	山口麻里子		福井	BALBA R.	1:21:38

2002年JOCジュニアオリンピックカップでのアンチドーピング規則違反選手への制裁について

標記について、平成14年8月28日に開催した第３回アンチドーピング委員会において、下記競技者資格に関し、UCI及びJCF規則に基づき下記のとおり処分を科すことを決定しました。

記

競技者名　馬場あさみ（愛知22FJ010949）・永田　萌子（大分県44FJ011191）
違反内容　上記各選手は、2002年JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会におけるアンチドーピング検査の際、着位又は抽選によりドーピング検査対象になったにもかかわらず、制限時間内に出頭せず、時間後検査室に出頭した。
制　　裁　警告を与え、罰金5,000円とする。
適用条項　UCIアンチドーピング検査規則第72条及び132条

2002年トラック世界選手権 日本代表選手団

大 会 名：2002年トラック世界選手権自転車競技大会
実施場所：デンマーク・コペンハーゲン
大会期間：平成14年9月25日（水）～9月29日（日）
派遣期間：平成14年9月21日（土）～10月1日（火）
代表選手団：
【選 手】飯島 規之（JPCA埼玉）・堤　　洋（JPCA徳島）
長塚 智広（JPCA茨城）・井上 昌己（JPCA長崎）
大森 慶一（北海道）・永井 清史（岐　阜）
飯島　誠（JPCA）
【ｽﾀｯﾌ】監　督：ｹﾞｰﾘｰ・ｳｴｽﾄ（連盟強化コーチ）
コーチ：福田　公生（連盟強化コーチ）
渡辺　知明（JPCA）
ドクター：久留　秀樹（陸上自衛隊・医師）
ﾒｶﾆｼｬﾝ：藤原冨美男（連盟強化スタッフ）　ﾏｯｻｰｼﾞｬｰ：柳　　浩史（連盟強化スタッフ）
通　訳：増田恵美子（連盟強化スタッフ）　総　務：斉藤晃一郎（連盟選手強化部）

2002年ロード世界選手権 日本代表選手団

大 会 名：2002年ロード世界選手権自転車競技大会
実施場所：ベルギー・ゾルダー
大会期間：平成14年10月8日（火）～10月13日（日）
派遣期間：平成14年9月26日（木）～10月15日（火）
代表選手団：
【選 手】沖　　美穂（JPCA）・別府　史之（神奈川）
池田　丈志（奈良）・小岩　大介（大分）
舟木　　誠（福島）
【ｽﾀｯﾌ】監　督：高橋　松吉（連盟強化コーチ）
コーチ：山宮　　正（JPCA強化スタッフ）
ﾒｶﾆｼｬﾝ：鬼原　　積（連盟強化スタッフ）
総　務：斉藤晃一郎（連盟選手強化部）

日本新記録

■チーム・スプリント（250m×3）
男子ジュニア　48秒665　北津留 翼・橋本　強・臼井 昌巨（日本）　2002/8/23　オーストラリア・メルボルン

革新的なオーダーシステム
システムU 登場!!
色やデザインの自由度が高いシステムで、スタイルからも差をつけよう。
◎従来品より約５０％（当社比）、大幅ダウンの低価格設定
従来の制作方法を大きく変えるシステムを採用し、フルオープン・ジッパー採用のバイクジャージが、吸汗速乾性に優れる「ルミエース®」（（株）ユニチカ製）を使用し、色数に関係なく5枚より作ることができます。もちろん、バイクパンツ、グローブ、シューズカバーと多くのアイテムの製作が可能です。
低価格でありながら、機能面そしてカスタムオーダーシステムの醍醐味と楽しさを「システムU」で実感してください。
プリント版代不要!
４色以上の多色プリントが可能!
約６０日でお届け!
５枚よりオーダーが可能!
PEARL iZUMi TECHNICAL WEAR
http://www.pearlizumi.co.jp　オンラインショップ http://shop.goo.ne.jp/store/ip-pearl　株式会社パールイズミ
＊見積り依頼等、詳しくは弊社特品課（電話03-3633-5461、E-mail:custom@pearlizumi.co.jp）までお問い合わせください。

第3回 チャレンジ・ザ・オリンピック 実施要領

主　　催　財団法人 日本自転車競技連盟
後　　援　財団法人 日本オリンピック委員会
実施期日　平成14年10月20日（日）9：00～16：00
実施場所　日本サイクルスポーツセンター250mトラック
実施内容　（1）250mタイムトライアル（スタンディング）男子
（2）1kmタイムトライアル（スタンディング）男子
（3）500mタイムトライアル（スタンディング）女子
（4）200mタイムトライアル（フライング）男女
（5）3km及び4kmTT（スタンディング）男女
参加資格　トラックレーサーにより250m走路を走行できる男女。
申込方法　ハガキ・FAX・E-mailにて住所・氏名・年齢（生年月日）・職業・電話番号・自己タイムを明記の上、
財団法人 日本自転車競技連盟 選手強化部 あて申し込む。
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15　FAX：03-5561-0508　E-MAIL：cycling@japan-sports.or.jp
申込締切　**平成14年10月10日（木）連盟必着**
そ の 他　（1）交通費の負担は、下記のとおりとする。
原則各自負担。但し、下記タイムを記録した者には本人最寄り駅からを連盟が負担する。
200m：11秒000以内（男子）、12秒000以内（女子）　250m：18秒750以内　500m：39秒000以内
1km：1分08秒000以内　3km：3分45秒000以内（ｼﾞｭﾆｱ男子）、4分00秒000以内（女子）　4km：4分50秒000以内（ｴﾘｰﾄ男子）
（2）下記タイム更新者は、連盟強化指定選手等に追加指定する。
200m：10秒500未満（男子）、11秒800以内（女子）　250m：18秒200未満　500m：38秒000未満
1km：1分05秒000未満　3km：3分40秒000以内（ｼﾞｭﾆｱ男子）、3分55秒000以内（女子）　4km：4分45秒000以内（ｴﾘｰﾄ男子）

連盟の動き（8月下旬～9月中旬）

8月25日　ロード強化合宿（→8/31）於：長野県
MTB世界選手権日本選手団出発（帰国→9/3）於：オーストリア・カプルン
28日　第3回アンチ・ドーピング委員会
9月 1日　トラック強化合宿（→5日）於：静岡県・日本CSC
2日　第3回総務委員会
6日　第4回常務理事会兼選手強化本部会
13日　第2回理事会

選手強化委員会から新メンバーのお知らせ
選手強化委員会・強化スタッフ
森　昭雄
特別育成チーム（短距離・女子）
大菅小百合

編 集 後 記

夏の終わりになって、タマちゃん人気が話題をさらっていた。新聞、テレビで毎日報道され、今や全国的にちょっとしたブームで、見物人目当てのかき氷屋が出るまでになった。

若い人たちの間では、意外性があり、超かわいいものをさして、「タマちゃんみたい」と言うのが結構、受けているらしい。北海生まれのアゴヒゲアザラシが東京の多摩川に現れたのが8月7日。それが大雨でいったん姿を見せなくなった後、今度は横浜市の鶴見川で見つかった。三週間あまりたって、「少しやせたようだ」というのが熱心な見物人たちの心配。そこで国土交通省、環境省や自治体が協力して観察を続けている。それにしてもタマちゃん人気はどうしてこんなに盛り上がったのだろう。この夏は猛暑、台風、真紀子議員辞職、長野知事選、日ハムと話題には事欠かなかった。国民の人気には人一倍敏感な小泉首相までが「かわいいね。ちょっと見てみたいね」と言うくらいだからこれはもう本物だ。一つ理屈をつけると、今の政治や社会の風潮に欠けている、素朴に平和を願う心なのか、または心が癒される感じがする「内閣府の調査で心の豊かさに重きを置きたいが6割を超えた」なのか、最近は物より心に重きを置く人が多い。我が自転車競技においても競技志向の高い大会より、乗鞍ヒルクライムのような自己タイムや景観を楽しむ大会とか、ツールドフランスの1ステージを走るエタップ・デュ・ツール「VELO MAGAZINE 主催」には、世界より9000人が走り完走者には全員着順がつき、さらにスイスの景観を楽しめるような大会が人気を得ている。比較することが違うのかも知れませんが考えさせられることではないでしょうか？　（中西 泰三）

シクリスムエコー No.90　2002年9月号
発　　行／財団法人 日本自転車競技連盟
発 行 人／岩 楯 昭 一
編 集 人／村 田 統 司
編集事務局／財団法人 日本自転車競技連盟 事務局
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内
TEL 03-3582-3713　FAX 03-5561-0508
URL http://www.jcf.or.jp/

KEIRIN この資料および の表示がある事業は、日本自転車振興会から競輪収益の一部である公益事業資金の補助を受けたものです。
©（財）日本自転車競技連盟 2002 本紙掲載の写真、イラスト、ロゴマーク、ロゴタイプおよび記事の無断転載を禁じます。